

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

学校名【 福山市立東小学校 】

1 実践テーマ	【I・III・IV・V】
2 実施対象者	全クラス 315人
3 展開の形式	(O) 教科で実施 教科名 (体育) (O) 教科以外で実施 (道徳)
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック教育を通して、スポーツの意義や価値を学び、公德心（マナー、フェアプレー精神、思いやり）を養う。
5 取組内容	1・2年生 体育科 友情、フェアプレーに重点を置いて指導を行い、友達と協力して準備・片付けをする態度や、友達の良い動きを互いに見つけて伝え合う姿、ルールを守ろうとする態度について評価した。 3・4年 道徳 道徳教材をきっかけとしてオリンピックについて学ぶ機会としたり、スポーツの「する人」「見る人」「支える人」の視点で授業展開したりした。 5・6年 パラリンピック競技（シットイングバレー、ゴールボール） パラリンピック競技を通じてスポーツの価値や障害者理解についての学習を行った。 特別支援学級 外国の文化に関心をもって、外国の人々と親しもうとする態度を養う授業を行った。 全校 福田正博さんの講演 5・6年生 実技指導 フェアプレー、努力することの大切さについての講演、実技指導をしていただいた。
6 主な成果	・オリンピックの精神の友情・フェアプレーの精神を知り、自分たちが体育の中で何ができるかを考える機会となった。（仲間同士のはげまし、アドバイス、拍手など） ・すごいことをすることより、自分の技を磨くことの大切さを知り、苦しいことにもベストを尽くす児童が増えた。 ・フェアプレーをするとみんなが気持ちよく運動することができることを知り、自分のチームだけでなく、相手チームのことも考えてプレーできるようになった。 ・障害者への見方が変わった。（かわいそう、大変そう → スポーツを楽しんでいる、自分たちと同じ） ・スポーツの価値に気がついた。（どんな人でも楽しめるもの、誰とでも楽しめるもの、スポーツって楽しい）
7 実践において工夫した点（事業の特色）	・福田正博さんの講演から学んだフェアプレー精神を、どの単元でも指導に取り入れた。 ・全学年がオリンピック・パラリンピック教育に取り組み、話し合うことでオリンピック・パラリンピック教育の目的や方向性がはっきりした。
8 主な課題等	・教師主導でのオリンピック・パラリンピック教育の学びであった。これがきっかけとなって児童主体で、考えて公德心のある行動ができるようにする。 ・道徳の副読本にあるオリンピック選手についての話を扱うだけでは、オリンピック・パラリンピックやスポーツの価値に迫ることはできなかった。道徳的な価値、スポーツの価値をしっかりと考えてどちらかに絞って発問していく。
9 来年度以降の実践予定	東京オリンピック・パラリンピック開催後も続く教育となるよう、 ・オリンピック・パラリンピック教育の意義を全職員が共通認識する。 ・どの学年でどんな学習内容を行い、どんな力をつけていくか系統を立てていく。